第 150 回　森で遊ぶ会―「黒岳のレンゲショウマ」

日時：平成 29 年 8 月 22 日（火）　8 時～18 時 35 分（現地 10 時 50 分～15 時 40 分）
場所：山梨県笛吹市芦川新道峠周辺
参加者：男性 6 人　女性 28 人　合計 34 人
担当幹事：萩野、越智
アシスト会員：青野、小嶋、小久保、杉山、大石

『観察会状況』

当初 18 日を予定していたが、雨の恐れがあって 22 日に延期したため、参加者が 10 名ほど減った。それでも会員と合わせると、大型バスの席がほぼ埋まるほどの人数になった。当日は富士も河口湖も見え、まずまずのお天気であった。

バスの中で、行程の説明をし、ハイキング組と散策組に分かれて行動することにした。ハイキングを希望した 24 人は 3 班に分かれていただき、それぞれがインストラクターの先導でスズラン畑の中を通ってスズラン峠登り口に向かった。スズラン畑では、フシグロセンノウのオレンジ色が印象的で、更にタマゴタケ、ママコナやキバナアキギリの花なども観察した。「タマゴタケは毒々しく見えるけどオムレツやバター炒めにすると美味しいキノコですよ」との説明には、参加者も興味をそそられたようだった。標高差にして峠までの 1／3 ほどを歩き、スズラン峠登り口まで着いたところで、小休止。ここで 4 名が散策組に移ることになった。

タマゴタケの幼菌

スズラン峠までは、ミズナラ、ツガ、モミ、サラサドウダン、ツノハシバミなど主に樹木の観察をしながら歩いた。ツノハシバミのユニークな形の実、ルイヨウボタンの果実の色の変化などを観察した。途中息の上がった人もいたが、全員無事にスズラン峠まで登り切った。そこで昼食後、コース沿いや林床の植物を見ながら、尾根道を新道峠に向かった。途中、クサボケの実、ワレモコウの花、キヌタソウの花や実などが観察できた。キヌタソウの名の由来を説明したところ、実の形に例えたキヌタ（砧：布を打つ民具）を参加者はみなご存じのようで、感心した。しかし肝心のレンゲショウマについては鹿に喰われた株が多く、スズラン峠付近の尾根道では、なかなか花に出会うことができなかった。

レンゲショウマの花

一方、散策組の 10 名は車で新道峠登り口まで行き、そこから歩き始めた。すぐに、今日の目的である優美なレンゲショウマ、またソバナの可憐な薄紫

の花にも出会い、みな大喜びだった。レンゲショウマは鹿に先端を喰われたものや葉だけの株もあったが、この付近には花や蕾のついた株が多く残っていた。更にマルバタケブキ、ヒメキンミズヒキなども見られた。全員元気でもっと歩きたいとの希望があり、富士山の眺望がよい新道峠第１展望台まで登ってそこで昼食とした。ハイキングから途中で散策に移った人々も、会員が迎えに行ってここで合流した。昼食後は新道峠登り口まで下り、スズラン畑までの林道を歩いて戻った。

展望台からの河口湖と富士山

一方で、それまでレンゲショウマの花になかなか出会えなかったハイキング組にも、尾根道を歩き下って新道峠付近まで来た所で待望のレンゲショウマの花が待っていた。林床のあちこちに咲いた優美な花をたっぷり楽しんだ後は、全員が林道を歩いて駐車場まで戻った。

帰路の林道沿いでは、ソバナ、実のついたヤマブドウ、コウゾリナなど様々な植物が観察された。アイヌ民族がアツシという布の原料としたオヒョウも静岡ではあまりみられないものである。また、ヒヨドリバナの蜜を吸いに集まったアサギマダラの乱舞には、参加者全員が大喜びだった。アサギマダラが産卵するイケマには花が観察できた。クロイチゴの実を期待していたが、すでに枯れて食べごろは過ぎていた。しかし代わりにエビガライチゴの真っ赤な実を観察し、試食もできた。

ソバナの花

ヒヨドリバナの花とアサギマダラ

疲れた方、トイレに行きたい方など、林道の途中から車で駐車場に向かった参加者もいたが、見てほしいものは、ほとんど見ていただけたと思う。雨や雷にもあわず３時半過ぎには、全員スズラン畑駐車場まで無事戻ることができた。

記録　越智